

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	ヨーロッパの文化とことば (Culture and Language in Europe)			新座(Niiza)
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	ラテン語を通してヨーロッパの文化を見る			
担当者名 (Instructor)	芝元 航平(SHIBAMOTO KOHEI)			
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)	
科目ナンバリング (Course Number)	CMP2100	言語 (Language)	日本語 (Japanese)	
備考 (Notes)				

授業の目標(Course Objectives)

ラテン語とヨーロッパ文化についての理解を深めるとともに、言語という観点から文化を考える視点を獲得する。

Students will gain a deeper understanding of Latin and European culture and gain perspectives on thinking about culture in terms of language.

授業の内容(Course Contents)

ラテン語は古代ローマ人の言語であり、現在ではラテン語を母語とする人はいませんが、ラテン語は東アジアにおける古典中国語(漢文)と同様に、現在に至るまでヨーロッパの文化・教養の源泉であり続けています。本講義では、主にこのようなラテン語とのかかわりを通じて、ヨーロッパの歴史、思想、宗教、社会等について考察していきます。その際には、われわれがヨーロッパ固有の文化だと思っているものには、ヨーロッパ以外の文化圏の文化や言語に由来するものも多いということや、日本やアジアの人々がどのような言葉でヨーロッパの文化を受容したのかといった文化交流的な視点を重視したいと思います。なお、ラテン語の知識は前提としません。

Latin is the ancient language of the Romans, and although there are no native speakers of Latin at present, Latin continues to exist as a source of European culture and cultivation to the present, similar to classical Chinese language (Kanbun) in East Asia. Through the Latin language, we will examine European history, ideas, religion, and society, etc. In doing so, we would like to emphasize the cultural exchange perspective whereby many of the things that we think are unique to Europe originate from cultures and languages outside Europe. Note that knowledge of Latin is not assumed.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション
2. ラテン語の言語学的な位置づけ
3. ラテン語のしくみ
4. 英語とラテン語
5. 前回の続き
6. 古代ローマ史とラテン語(1): 共和政ローマ
7. 前回の続き
8. 古代ローマ史とラテン語(2): 帝政ローマ
9. ヨーロッパの哲学とラテン語(1): 古代・中世哲学
10. ヨーロッパの哲学とラテン語(2): デカルトとカントの哲学
11. ヨーロッパの宗教とラテン語(1): 古代ローマ人の宗教
12. ヨーロッパの宗教とラテン語(2): キリスト教
13. ヨーロッパの社会と言語: 特に EU について
14. 最終テスト

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業のノート、配布資料、参考書等に目を通して授業の復習を行い、ラテン語とヨーロッパ文化との関わりを考察するとともに、日本語や英語など普段目にする言語についてもその語源や文化との関わりに関心を持つ。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終テスト(Final Test)(40%)/毎回の授業へのコメント(60%)

各回の授業の進捗・順序は変更の可能性があります(時間的にすべてのテーマを取り扱えない可能性があります)。また、対面での授業が実施不可能となった場合には、平常点の最終テストの代わりにレポートを課す可能性があります。

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

1. 小林標、2006、『ラテン語の世界——ローマが残した無限の遺産』、中央公論新社 (ISBN:9784121018335)
2. 寺澤盾、2008、『英語の歴史——過去から未来への物語』、中央公論新社 (ISBN:9784121019714)
3. 本村凌二、2014、『はじめて読む人のローマ史 1200 年』、祥伝社 (ISBN:9784396113667)

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

注意事項 (Notice)